

# 令和7年度 第1回高砂市都市計画審議会 議事録

開催日時 : 令和7年11月18日(火) 10時00分～12時00分

場 所 : 高砂市役所 南庁舎5階 大会議室

出席者 : 別紙「出席者一覧表」のとおり

議 題 : (1) 事前説明  
播磨東部地域都市計画区域マスタープラン等について  
(2) 報告  
高砂市都市計画マスタープラン改定骨子(案)について

## 議事要旨

### (1) 事前説明

播磨東部地域都市計画区域マスタープラン等について

質問・意見(委員)	回答(事務局)
都市再開発の方針に具体的な地区名が記載されている理由は。	市街地開発事業や再開発事業の計画等が決まった段階で対象地区として記載されている。
加西市の区域区分の廃止について、特に市のビジョンや考え方を兵庫県に対して働きかけていく必要があったのか。	地域活力を維持していくため、新たな土地利用ニーズに対応していく必要があり、県に対して働きかけたと聞いている。ただし、加西市は、無制限に開発をしていくということではなく、条例を制定し、適切に土地利用をコントロールしている。
明姫幹線南地区において、市街化調整区域を市街化区域に編入する考えはあるか。 農地転用が進んで資材置き場が混在している状況であり、優良な農地の保全という市街化調整区域の意義が達成できていない現状を踏まえ、市街化区域に編入して優良な住宅地として整備する考え方があっていいのではないか。	高砂市では、今後人口減少がさらに進み、さらに駅前への拠点低下や空洞化が進んでいく中で、むやみに市街地を拡大していくことは難しいと考えている。 今後は、市街化区域への編入ではなく、市街化区域や市街化調整区域の枠組みは維持した上で、地域の特性に合った地区計画など、きめ細かな対応をしていきたい。
空き家や密集市街地といった旧市街地特有の課題について、県の区域マスタープランでは、どのように記載されているのか。	区域マスタープランの上位計画である「ひょうご都市計画基本方針」において、密集市街地の改善、防災空地の整備などの方向性が示されている。 県の区域マスタープランでは、各市町の具体的な記載が難しいため、本市の都市計画マスタープランでの記載を今後、検討していきたい。
宝殿駅について、兵庫県や加古川市と調整し、県道拡幅だけでなく、駅周辺の整備を進めるべきではないか。	県道拡幅とあわせて駅周辺の整備を進めるべく、兵庫県や加古川市と調整を図っていく。

## (2) 報告

### 高砂市都市計画マスタープラン改定骨子（案）について

質問・意見（委員）	回答（事務局）
幹線道路沿道への生活サービス施設誘導には、用途地域の変更も含めた土地利用の検討が必要ではないか。	鉄道駅や幹線道路沿道への生活サービス施設等の機能誘導は市民の生活利便性の向上に繋がっており、今後のまちづくりの方向性として大変重要であると考えている。 今後、用途地域の変更も視野に入れながら、土地利用の方針を検討していきたい。
バスの増便など、公共交通の充実を図って欲しい。そのためには、自動運転など新技術の活用もあわせて検討いただきたい。	コミュニティバスの増便等につきましては、収支の赤字、運転手の不足等、多くの課題がある中で、引き続き、利便性向上に取り組んでいく。 また、自動運転などの新技術やデマンド型交通など、新たな交通システムの導入についても検討していきたい。
近年増加する空き家への対応として、改修補助の充実など、既存ストックの活用による市外からの移住促進につなげて欲しい。	既存ストックの活用という観点で、高砂市では改修費の一部補助を行っており、市外からの移住促進に繋がる支援と考えている。
多くの方が通勤で利用する高砂駅や荒井駅の駅周辺整備を行うなど、来訪者の滞在に繋がるにぎわい創出が必要ではないか。	高砂駅から荒井駅間では、連続立体交差事業に関連した駅前広場等の整備を検討している。 本市の都市計画マスタープランにおいても、都市機能の集約を強化する都市拠点に位置づけ、ハード対策を進めていくとともに、民間活力の活用を含めた、にぎわい創出を目指していきたい。
地域区分について、これまでの8地区から5地区に変更となる考え方は。	今後、人口減少が進んでいく中で、駅を拠点としたエリア設定を行うとともに、買い物等の生活の実態を踏まえ、5地区に変更している。
将来都市構造図の都市拠点として、高砂駅から荒井駅周辺を設定した理由は。	県の播磨東部地域都市計画区域マスタープランにおいて、広域的な観点での地域拠点として高砂駅から荒井駅付近が位置付けられている。また、現行の本市の都市計画マスタープランにおいても、高砂駅周辺が都市拠点として位置づけられていることから、引き続き、都市拠点として設定している。
観光施設へのアクセス環境の整備についてはどのような考えか。	現在、都市計画マスタープランの関連計画として地域公共交通計画を策定しており、通常の移動に加え、観光の移動という観点も入っている。現時点で具体的ではないが、観光拠点に対しても、アクセス性を確保する必要があると考えている。
北浜地区は、大塩駅を中心として姫路市との広域的な連携が重要であるとする。公共交通も含めて、マスタープランにどう記載していくのか。	資料2の4ページの“目指すまちの姿”の“ともに未来を創るまち”という項目で、“多様な主体が協働する”と記載しており、近隣市町との連携も必要と考えている。

質問・意見（委員）	回答（事務局）
<p>荒井駅は、通勤利用者が乗降するため、気軽に食事や買い物をできるような場所や憩えるような場所の設定も必要である。駅周辺の商業活性化への市民ニーズに応えるため、どの駅に都市機能を集積し、まちづくりを進めていくのか。</p>	<p>地域や拠点、駅利用者の特徴を踏まえ、高砂駅から荒井駅間を都市拠点としてにぎわいをつくっていくことが必要と考えている。高砂駅や荒井駅には、市外から働きに来られる方の利用が多く、いかに滞留させ、にぎわいにつなげていくかが、今後の課題である。</p>
<p>都市計画道路農人町線について、高砂駅や荒井駅周辺の再整備と併せて、検討に入れていく必要があるのではないかな。</p>	<p>連続立体交差事業でまちの形が大きく変わるため、今後、こういった形で都市計画道路を実際に整備していくか、計画に位置づけていくか検討していく。</p>
<p>見直しサイクルはどう考えているか。上位計画と同様に5年ごとの見直しが必要ではないか。目標年次や見直し時期も、記載いただきたい。</p>	<p>目標年次を令和28年と設定している。上位計画の改定や社会情勢の変化も踏まえ、10年毎の改定、さらに5年毎の中間見直しが必要と考えている。</p>
<p>都市計画マスタープランや将来都市構造図の考え方は、問題ない。 拠点や連携軸で囲んだ周辺の居住密度や生活水準を高めていく考え方を反映させた都市構造図ということか。</p>	<p>拠点や連携軸で囲んだエリアの居住密度や生活水準を高めていく考え方を基本に、将来都市構造図を作成している。</p>
<p>高砂駅から荒井駅周辺を都市拠点として一体的に整備し、価値を高めていくという考え方は、公共政策的に妥当である。高砂駅と荒井駅の2つの駅を一体的に整備することが高砂市全体の発展に繋がるという考え方か。 また、都市計画の潮流は大きく変化しており、整備した空間をどうマネジメントしていくかにシフトしている。持続可能なまちづくりを進める上では、地域の方や民間事業者も含めて、整備された空間をどう使っていくかを考えて実行していくことが重要であると考えている。</p>	<p>高砂駅から荒井駅間は、高架化に伴い、一体的な拠点として設定し、昨今、重要性が高まっているウォークブルで魅力的な空間等を目指していく。駅はまちの顔であり、一定程度、ハード整備していくことが、市民の方へのメッセージ性の意味でも大事であると考えている。 あわせて、みんなでまちづくりを進めていく“共創”の概念を、都市計画マスタープランを検討する際の基本的な考えとしていきたい。</p>
<p>現行の都市計画マスタープランの評価と課題に対する改定後の都市計画マスタープランへの反映は。</p>	<p>ハード面については一定の成果はあった。一方、鉄道駅周辺の拠点性については、引き続き、課題意識を持って取り組んでいく。 加えて、今回の改定では、新たに高齢者や子育て世代にも重点を置き、改定の方角性を整理している。</p>
<p>今回の審議会で出た意見は、今後、どのような形で反映されるのか。</p>	<p>今後のまちづくりの方針の中で分野別や地域別方針として、具体的に記載していく。</p>

# 令和7年度 第1回都市計画審議会出席者一覧表

## ■ 審 議 会 委 員

会 長	三 谷 哲 雄	出 席	委 員	辻 本 浩 司	出 席
委 員	太 田 尚 孝	出 席	委 員	北 野 誠 一 郎	出 席
委 員	森 本 幸 吉	欠 席	委 員	藤 森 誠	出 席
委 員	濱 田 耕 資	欠 席	委 員	迫 川 高 行	出 席
委 員	田 中 久 雄	欠 席	委 員	岩 見 明	出 席
委 員	北 野 益 生	出 席	委 員	松 野 優 也	出 席

## ■ 幹 事

技 監	野々村正信	出	都 市 創 造 部 都 市 住 宅 室 長	石 原 慎 一	出
上下水道部長	福 本 雅 之	出	都 市 創 造 部 都 市 住 宅 室 都 市 政 策 課 長	中 西 裕 紀	出
都市創造部長	井 上 陽 介	出			

## ■ 事 務 局

都 市 創 造 部 土 木 建 設 室 長	坂 東 晋	都 市 創 造 部 都 市 住 宅 室 都 市 政 策 課	東 保 陽 子
都 市 創 造 部 都 市 住 宅 室 都 市 政 策 課 主 幹	山 脇 弘 之	都 市 創 造 部 都 市 住 宅 室 都 市 政 策 課	木 村 真 也
都 市 創 造 部 都 市 住 宅 室 都 市 政 策 課 主 幹	吉 田 浩 司	都 市 創 造 部 都 市 住 宅 室 都 市 政 策 課	三 木 絢 央
都 市 創 造 部 都 市 住 宅 室 都 市 政 策 課 主 幹	正 木 利 和	都 市 創 造 部 都 市 住 宅 室 都 市 政 策 課	坂 東 愛 美
都 市 創 造 部 都 市 住 宅 室 都 市 政 策 課 係 長	村 田 良 樹	都 市 創 造 部 都 市 住 宅 室 建 築 住 宅 課 長	清 水 大 輔